

前立腺がんは発症頻度の高いがんの一つで、2008年の日本のデータでは男性のがんの13・6%を占め、2番目に罹患率の高いがんであることが知られています。加齢とともに増加するため、世界有数の長寿国である日本では高齢化が進むにつれて罹患率は急速に増加しています。現在では年間に4万人以上



徳島大病院がん診療連携センター
福森 知治 センター長

の方が前立腺がんに罹患し、1万人以上の方が亡くなっています。

前立腺がんの早期発見に多大な貢献をしているのが「PSA(前立腺特異抗原)検査」です。PSAは前立腺の細胞で特異的に作られるタンパク質で、前立腺がんなどの前立腺の病気になる

ると血液中に流出し、値が高くなります。PSAは少量の血液検査で判るので、他の採血と同時に簡単に測定可能。最近では

検診でもPSA検査を簡単に受けることができます。前立腺がんは症状が少ないため、早期発見のためにこのPSA検査を

受けることが最も重要と言えます。

前立腺がんの治療法は、早期の場合は前立腺への局所療法が中心となり、手術療法、放射線療法などの様々な治療選択が可能です。

手術療法に関しては従来の開腹手術から腹腔鏡手術、さらに最近ではロボット補助下手術が保険適応となり、全国に普及しつつあります。ロボット補助下手術では、より緻密で正確な手術が可能となり、出血量は少なく術後早期から尿失禁の頻度も低下しています。

前立腺がん早期発見へPSA検査を

放射線治療は外照射と内照射(小線源療法)に分けられますが、いずれの治療も前立腺に多くの線量を集中させ、前立腺周囲の膀胱や直腸の線量を低下させることが可能となり、治療効果は高く、合併症は少なくなりました。転移を有する進行がんの場合は男性ホルモンを抑制するホルモン療法が中心となり治療選択

が限られますが、早期がんの場合は個々の状況に合わせた治療選択が可能です。前立腺がんは治療効果が高く、早期に発見すれば完治する可能性が高いがんであるため、男性は50歳を超えたらPSAを定期的に測定し早期発見に努めましょう。